

鉄道・リニアの 軍事利用には反対です！

8/25、朝日新聞

米中間の軍事技術のせめぎ合いは、日本企業にも無関係ではない。注目されているのがJR東海の「リニア」技術だ。東京―名古屋間を40分で結ぶ「夢の超特急」の駆動力を、空母のカタパルトや軍艦のレールガンに転用できないかというのだ。

超伝導が生み出す強い磁力を生かしたリニアの最高時速は約5000km/h。艦載機発艦に必要とされる約300km/hを超え、原理的にはカタパルトへ転用が可能だ。しかし、コイルをマイナス269度に冷やす膨大なエネルギーの確保が難点だ。

一方、遠距離に弾丸を撃ち出すレールガンには、リニアは「力不足」。JR東海幹部は「リニアは、あくまで鉄道を浮上させて走らせる目的で開発してきた」と、軍事転用の可能性を否定する。ただ、今後は有望な軍事技術になりうる。米国の軍事専門家は「リニアとレールガンの技術には共通点が多く、リニアを輸入する意味はある」と明かす。

リニア 軍事転用の懸念も

リニア技術が軍事転用される可能性はないか。4月中旬、記者に問われた菅義偉官房長官は「技術的なことはよく分かりませんが」と述べるにとどめた。

JR東海はいま、リニアの海外への売り込みを進める。第一の標的は米国。JR東海の葛西敬之名誉会長は「(米国が日本の)同盟国で、国益のベクトルが同じだから」と説明する。4月の日米首脳会談では、安倍首相がオバマ大統領に技術を無償で提供する考えを伝えた。

一方で中国への輸出は念頭にはない。00年代半ば、川崎重工などが新幹線技術を中国に供与したところ、その後中国側が「独自開発の国産新幹線」と宣伝した苦い記憶があるためという。

ある政府関係者はこう解説する。「リニアは軍事転用の恐れもあるからこそ、絶対に信用できる米国とやりたい。リニアは「日米同盟の象徴」なのだ」(井上亮、大日向寛文)

記事によると、政府関係者の解説として「リニアは軍事同盟の象徴」と書いています。そう言えば今年5月、葛西会長がメンバーでもある安倍首相の私的諮問機関「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」(安保法制懇)が、「集団的自衛権の行使」を認める憲法解釈の変更を求めた報告書を首相に提出しました。その後の7月1日安倍内閣は、国民の反対の声を無視して「集団的自衛権行使」を容認するという憲法解釈に関する政府見解を閣議決定しました。自衛隊の海外での武力行使を可能とし、日本を「戦争のできる国」へとつくりかえたのです。リニアをそうした軍事行動にも役立つようにとドス黒い野望を持ち、「(米国が日本の)同盟国で国益のベクトルが同じ」などと安倍政権の下支えをする一部役員に操られた「リニア計画」は、きれい事ばかりが聞こえてきますが、経営的にも平和的にも極めて危ない計画であるのではないのでしょうか？ 皆さんはどう考えますか！？